

みんなの生き方、わたしの生き方

所属	静岡県浜松市立細江中学校	実践者	高井 季代子
対象	中学1年生(201人)	時間数	9時間
場所	教室、体育館	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	他者の多様な考え方や、自分と社会・世界との様々なつながりを知り、自らの価値観を広げることを通して、自己を見つめ直し、自己の生き方を考えることができる。そして、3年生になったときには、目標や夢をもって進路選択をすることができる。		
実践 内容	回	プログラム	備考
	1-2	◆JICA出前講座 ラオスでの支援活動を知る ・「派生図」で国際協力という言葉からイメージを広げる。 ・「質問作り」で次時の講演会に向けて自分なりの視点をもつ。 ・三田氏の生き方やラオスでの支援活動を知る。	・出前講座の事前学習 ・全校対象の講座 講師は元青年海外協力隊 三田景子氏
	3	◆多様な考え・価値観に触れる アイスブレーキング「仲間づくり」。 ・「世界の常識?!クイズ」を班で考え、答える。 ・「四つのコーナー」でクラスメイトと自分の考えの相違に気付く。	
	4	◆自分と社会・世界とのつながりを知る】 アイスブレーキング「好きなチョコレート菓子で自己紹介」。 ・「〇×クイズ」で日本でよく目にする物がアフリカとつながっていることを知る。 ・チョコレートが口に入るまでにどのような道をたどり、どのような仕事の人に関わっているか、考えを出し合う。 ・サッカー選手を支える仕事はどんなものがあるか考え、11種類の職業分類を知り、将来就いてみたい職種を考える。	◆カーナのチョコレート、カオパウダー ・国際理解教育実践資料 P11 参照 ・H27 年度版進路の手引き(静岡教育出版社) ・お仕事図鑑
	5	◆地域を支える人の仕事に対する考えや生き方を知る】 アイスブレーキング「小さいころの夢で自己紹介」。 ・パイナップルに命を掛けた日本人の半生を紙芝居で知る。 ・「なりきり自己紹介」で浜松を支える人の職業観や人生観を知る。	◆カーナのパイナップルや農家の写真等 ・前単元「浜松調べ」でのインタビューを利用
	6	◆今までの自分を振り返り、今後の生き方を考える】 タイムラインでターニングポイントを分析し、未来予想図を描く。	
	7	◆“夢”講話 「みんなの夢、わたしの夢」】 日本や世界の人の夢を知り、自分自身の将来像を描く。	・講師は本校職員 石田あいり先生、趣味は旅行と「夢集め」
	8-9	◆職業講話 「浜松の職業人に学ぶ】 働く人の職業観や人生観、仕事そのものに対する理解を深める。	・8種の職種から選択
	成果	参加型の手法により、主体的かつ協同的に課題に取り組む態度が育った。仲間と共に、楽しみながら自分の生き方について考えることができていた。生徒、教師共に「総合的な学習の時間」のへの意識や取り組みが能動的になった。進路学習の堅苦しいイメージが変わってきた。	
課題	意図が十分に伝わっておらず、浅い活動で終わってしまったものがあった。今回限りのものにせず、参加型の形態を今後も取り入れながら、職業体験(2年生)、歴史文化学習(3年生)や進路学習全般へと繋げていきたい。同僚の理解と協力が必要である。		
備考	・本校の総合的な学習の時間の大テーマは「夢実現に向けて、他者の生き方に学び、自己の生き方を描く」。1学年のテーマは「支える人の姿に学ぶ」。 ・1年生の各クラスにて、各担任により同じ指導案で実施。		

[授業実践の詳細]

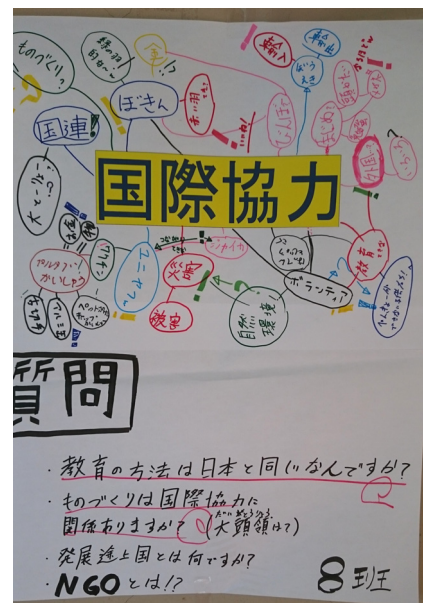
1-2 時限目 「JICA出前講座 ラオスでの支援活動を知る」

1 子どもの活動の流れ

- ① 派生図「国際協力」
国際協力について、連想されることを模造紙に書き出した。その後、模造紙の回し読みにより共有し、良いと思うアイデアに「☆」印、疑問をもった所には「？」印を付ける。
- ② 質問づくり
次の条件で、質問を考える。自分なりの視点を持って次時の講話に備える目的。＜教材1＞
【条件】
 - ・できるだけたくさん質問を考える
 - ・誰かが考えた質問について「ああだ、こうだ」言わない。
 - ・必ず全員が発言できるようにする。
 - ・最後に優先順位を決める。
- ③ 三田氏のラオスでの支援活動や生き方を知る
「ラオスはどこなところか」「ラオスで何をしたのか」「なぜ協力隊員になったか」「中学生に向けたメッセージ」「質問コーナー」の5つの柱で構成された座談会形式の講演会を行う。

この時限のねらい

元青年海外協力隊員の、生き方、仕事に対する考えに触れる。また、この講話に向けて、国際協力についてイメージを広げたり、課題をもったりする。



2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 「国際協力」というテーマは中学1年生には難しいかと思われたが、派生図により、テロや戦争といったものから地元の名産まで、多様な考えが次々に出された。模造紙の共有では、「☆」印が付いて返ってくると嬉しそうにしていた。協同学習を良い雰囲気で行うことができた。
- ◇ 質問作りでは、条件のもと、ゲーム感覚でたくさんの質問事項を考えることができた。講話を聞く視点を生徒それぞれが持つことができた。
- ◇ 講話では、講師の三田氏がクイズや写真を見せながら上手に興味を引き出し、生徒たちは、終始真剣な眼差しで話を聞いた。どの生徒もラオスに対して好印象を抱いたようだ。発展途上国の厳しい現実や日本との違いにショックを受けたという感想も多かった。三田氏の生き方について、学生時代バスケットボールに打ち込んだ経験、またバスケットで挫折した経験が国際協力活動の原点になったというエピソードは生徒の関心を引いた。



3 使用した教材

＜教材1＞ 国際理解教育ファシリテーター養成リレー講座2015 配付資料をアレンジ

3 時限目「多様な考え・価値観に触れる」

1 子どもの活動の流れ

- ① アイスブレイキング「仲間づくり」
性別、誕生日、住んでいる町、好きな中華まんなど、仲間づくりをする。
- ② 世界の常識？！クイズ
グループで相談しながら問題を解く。問題は、海外の法律や食べ物、気候、文化など10カ国について。クイズの優勝チームは次回ガーナチョコレートを試食できる権利を取得。
＜教材2＞
【クイズの例】
・ガーナの国旗。赤は独立に寄与した人の血。緑は豊かな森林。黒★は自由と統一。黄は？
・イタリアではアイスや果物に酢をかける習慣がある。○か×か？
- ③ 四つのコーナー
テーマについて、自分の考えを持つ。考えを示した後、一人ずつ理由を述べる。考えは途中で変えてもよい。＜教材3＞
【テーマの例】
・死刑は廃止した方がよい
・部活動は運動部が良い
・いつも笑顔でいるのが一番だ
・大人は子供に自分の期待像を押し付けることが多い

この時限のねらい

まず、私たちには普通でないことも世界では普通であることがたくさんあることをクイズで知る。次に、同じクラスの仲間でも、好みや考えていることが同じではないことを知る。多様な考え、価値観に触れ、違いを楽しむ。



＜四つのコーナー＞

はい	どちらかといえははい
どちらかといえはいえ	いいえ

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 「世界の常識？！クイズ」では、普段とは違うメンバー構成であったが、クイズの答えを一緒に考える活動を通してコミュニケーションがとれていた。答え合わせでも、驚きや喜びの声を上げながら、活気ある活動となった。肯定的に、世界の文化に出会えた。
- ◇ 「四つのコーナー」は、必ず全員意見を述べる約束なので、普段控えめな子も発言の機会が保証された。同じ考えで共感したり、意見が異なり口論のようになっていたり様子は様々であったが、どの班も時間いっぱいまで話を続けていた。「協同学習」の形態が定着してきたと感じた。

～振り返りシートより～

- ・いつも気にしていなかったけど、自分の周りには色々な人がいることが分かった。
- ・みんな意見がバラバラだった。自分の意見と理由をみんなに伝えられ、とても楽しかった。
- ・共感できる場所とできない場所があった。でも、自分と違う人と話すのは楽しかった。
- ・人それぞれ考え方が違って、必ず気が合うとは限らないから、自分の価値観を人に押しつけないようにしようと思った。やっぱり、一人一人が違わないと面白くないと思った。
- ・人それぞれの考えがあり、その個性が生かせるクラス、世界にしたいと思った。

3 使用した教材

- ＜教材2＞ 愛知県国際交流協会『世界の国を知る・世界の国から学ぶ私たちの地球と未来』各国教材参照
- ＜教材3＞ 国際理解教育センター『参加型で伝える12の物の見方・考え方』参照 1997

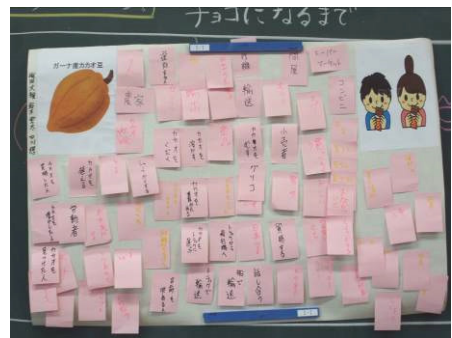
4 時限目「自分と社会・世界とのつながりを知る」

1 子どもの活動の流れ

- ① アイスブレイキング「チョコっと自己紹介」
好きなチョコレート菓子で自己紹介。さらに、前時のクイズ優勝チームはチョコレートの試食、その他のチームはココアパウダーの試食。カカオ豆や実、工場の写真を見る。<教材4>
- ② ○×クイズ
イラストを見て、アフリカと関係あると思えば○、関係ないと思えば×。答えは全て○。日本でよく目にする物や地元の特産物が、実はアフリカとつながりがあることを知る。<教材5>
【クイズの例】
アフリカと繋がりがあるのは？
・コーヒー ・バニラアイス ・バラの花 ・ウナギ
・ゲーム機 ・蚊取り線香 ・ガソリン ・ダイヤ
- ③ チョコレートが口に入るまで
チョコレートが口に入るまでどのような道をたどり、その過程でどのような仕事の人たちが関わっているか、付箋に考えを書き出す。
- ④ 11の職種
サッカー選手を支える仕事はどんなものがあるのか考え、厚生労働省「日本標準職業分類表」で11種類の分類を知り、将来ついてみたい職種を3つ選び、理由とともに班で共有する。<教材6、7>

この時限のねらい

私たちと世界(アフリカ)のつながりを知る。また、私たちの生活は多くの人(仕事)に支えられていることをチョコレートやサッカー選手を例に考える。さらに、職業分類11種を知り、将来就いてみたい職種を選ぶ。



2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 「○×クイズ」は、石油や鉱物は容易に予想できたようだが、ゲームやウナギ、イセエビなどは予想外だったようだ。アフリカとの意外な繋がりに興味を抱いた様子であった。
- ◇ 「チョコレートが口に入るまで」では、模造紙に貼りきれない程書き出した班もあったが、「仕事」という視点を忘れて脱線してしまう生徒もいた。農家や販売、製菓会社の他にも、豆の選定、広告、輸送、警備、砂糖製造、清掃など様々なジャンルを挙げた。次の「11の職種」につなげた。

～振り返りシートより～

- ・近くにある商品が、世界とつながっていると分かり、すごいと思った。
- ・カカオ豆が私たちの口に入るまでには、たくさんの人が関わっていることが分かった。
- ・一つの産物にも、いろいろな職業の人が関わっていて、考えてみると感動した。
- ・どんな仕事だとしても、絶対に地域のためになっていることが分かった。
- ・人それぞれの生き方で、世界を支えていることを知った。
- ・進路のことを少し考えることができた。

3 使用した教材

- <教材4> 教師海外研修で購入したGOLDENTREE社のチョコレート、ココアパウダー、カカオの実、現地で撮影した写真
- <教材5> JICA国際理解教育実践資料集 参照
- <教材6> ジブラルタ生命 センせい応援なごみペーパー「放課後」vol. 06 「社会を支えるお仕事図鑑」
- <教材7> H27年度版進路の手引き(静岡教育出版)

5 時限目「地域を支える人の仕事に対する考えや生き方を知る」

1 子どもの活動の流れ

- ① アイスブレイキング「小さいころの夢で自己紹介」
30秒程度で幼いころの夢を語る。
- ② 紙芝居「パイナップルに命を懸けた日本人」
教師による紙芝居の読み聞かせを聞き、ガーナのアチュワ村で村落開発を手掛けた青年海外協力隊員武辺寛則氏の半生を知る。パイナップルや畑、農家の人たちの様子を、写真を見て知る。<教材8>
- ③ なりきり自己紹介
前単元「浜松調べ」で出会った人達の職業観や人生観を紹介しあう。インタビューしてある事柄は、仕事内容、仕事に就いたきっかけ、やりがい、苦勞、人生で大切にしていることなど。

この時限のねらい

アフリカの小さな村を支えた青年と浜松を支える人たちの職業観や人生観に触れる。



2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 「紙芝居」では、「アフリカの農業の方法は？」や、「武辺さんはどうしたと思う？」など教師の発問に答えながら、読み聞かせに聞き入った。困難な状況でも決してあきらめず、村の人のために行動した武辺さんの生き方は心に響いていた。
- ◇ 「なりきり自己紹介」では、浜松調べで出会った人の職業や考え方や、生徒なりにその人物になりきって紹介した。ただ読み上げるだけの生徒も多かったので、写真やイラストがあるとより良いと思った。



～振り返りシートより～

- ・紙芝居を見て、武辺さんは自分らしい生き方をしているなと思った。
- ・武辺さんは、最後まで村人のことを考えていた。私もあんな人になりたい。
- ・アフリカのパイナップルを食べたくなった。武辺さんは、よくそんな にがんばれるなと思った。
- ・いろいろな人の生き方を聞いて、人それぞれだけど、自分が大切にしていることを一生守れば悔いはないと思った。



3 使用した教材

- <教材8> 教師海外研修で撮影した写真使用(紙芝居)

6 時限目「学校給食」

1 子どもの活動の流れ

- ① アイスブレイキング『タイムマシンがあったら』で自己紹介
タイムスリップするとしたらいつの時代に行きたいか、戻りたいかを理由を添えて話す。
- ② タイムライン
生まれてから今日までの人生を振り返り、曲線で表す。「絶好調、好調、普通、不調、絶不調」を縦軸に、年齢を横軸にする。担任が例として自分の人生を紹介する。〈教材9〉
- ③ 転機の分析と共有
タイムラインと共にターニングポイントを班の仲間と共有する。そして、ターニングポイントの前後でどう変わったかを発表する。
- ④ 未来予想図
タイムラインの続きを、起こり得る出来事も予想しながら記入する。何を心掛けて生活していくかワークシートに記入する。

この時限のねらい

タイムラインを作成し、今までの自分を振り返り、未来予想図でこれからの生き方を考える。



2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ ターニングポイントは、表彰された経験、引っ越し、ペットの死、修学旅行等様々で、その経験がどのように自分を変えたのかを言葉にすることは、自身の成長を客観的に見る機会にもなった。担任やクラスメイトの人生にも興味津々な様子であった。挫折や失敗も自己の成長に不可欠だったのでは、と投げ掛けた。
- ◇ タイムラインの続きの未来予想図では、起こり得る出来事をまだ具体的に書けない生徒が多かった。の段階では仕方ない。漠然とではあるが、頑張りたいことを皆前向きな言葉で書くことができた。

ターニングポイント	家族との旅行で、笑顔が絶えずとても楽し
事と自分の対応	めたことから 家族の存在は、なくてはならないものだと思った
返って… どう変化したか	まず第一に考えるのは、家族になり、とても大切にされるようになった

ターニングポイント	何か本気で打ち込めることを見つけ、
事と自分の対応	楽しく、じつとした人生にしたい。
返って… どう変化したか	今のうちから、仕事や趣味について考えて、大人になっても時に困らないように考えていきたい。

～振り返りシートより～

- ・自分の事を見つめ直し、これから明るい生活を送っていきたいと思った。
- ・自分の生き方をグラフのようにすることで、「こうしたい」という思いが強まった。
- ・みんなの人生について知れた。Kさんの生き方がすごくおもしろかった。
- ・いろいろな人に会って、自分の生き方を見つきたい。歳をとっても元気でいたい。

3 使用した教材

〈教材9〉 中学校3年間のキャリア教育・進路指導 ワークシートで創る！2007 をアレンジ

7 時限目「みんなの夢、わたしの夢」

1 子どもの活動の流れ

- ① 学年全体で講話を聞く。石田先生は、知り合いや旅先で出会った人達に夢を聞いて集めている。
- ② 礼状の書き方を学ぶ。形式に沿って、感想を交えたお礼の手紙を振り返りの活動として書く。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 紹介された夢は、個性的でユニークなものが多く、楽しみながら講話を聴いた。また、紹介された人がどうしてその夢を抱いたのか、夢は叶ったのか等のエピソードも興味深げに聴いた。「夢」のシャワーを浴びて、元気や勇気をもらえた生徒も多かった。
- ◇ 「世界の靴磨き職人」「パスポートを全部うめる」「今を楽しむ天才になる」等、普通は思いつきそうにない夢も多数あったが、生徒達は「どの夢も良い」と感じていた。多様な価値観に触れる好機となった。

この時限のねらい

「夢集め」をしている講師の石田先生の講話を聞き、日本や世界の人たちの夢や人生観を知る。そして、自分の将来の夢について考える。



～お礼の手紙・日記より～

- ・今日の話聞いて元気が出た。紹介していた人達の夢はすごいなと感動した。私も夢や目標をもって、実現できるといい。
- ・私の夢はたくさんある。お医者さん、看護師さんとかになって人を助ける仕事をする事や、お城に住みたいとかジオラマのすごく広いのを見たいとか…、夢を考えると楽しいので夢が大好きだ。
- ・石田先生が集めた夢を見せてもらった。有名人から若い人まで、出会った数々の人に夢を聞くのはすごいなと思った。「夢は口に出したり紙に書いたりすることが大切」という言葉がとても印象に残った。私も夢を大切にしていきたい。
- ・まだ自分の夢がないけれど、先生のお話と、画面に出てきた一人一人の夢を見て、私も「自分の夢をもちたい!」と思った。

8 時限目「職業講話『浜松の職業人に学ぶ』」

1 子どもの活動の流れ

- ① 派生図
選択した職業(整備士、製茶業、調理師、司会業、金融、消防、記者、福祉から選ぶ)について、連想されることを模造紙に書き出す。
- ② 質問づくり
第1回実践と同じ。
- ③ 職業講話
生徒の司会進行で行う。講師の生き方や仕事について理解を深める。質問する。
- ④ 礼状の手紙を書き、振り返る。

この時限のねらい

浜松を支える人の人生観や、職業観、仕事内容を知る。職業について理解を深める。

2 子どもの活動の成果・反応

～振り返りシート、お礼の手紙より～

- ・「浜松調べ」でも福祉を調べていたので、本当に福祉の仕事をしている人達の話聞いて良かった。僕は犬が好きなので、盲導犬など犬に関わる仕事に就けたらいいなと思った。
- ・司会の原田さんのお話の中で最も心に残った言葉は、「いろいろな物に興味をもち、知識をもつ」だった。僕はよく家でラジオを聴くので、もっと興味をもって聴きたいと思った。
- ・私は今、デザイナー、地球や人のためになること、お菓子のお店を開くことの3つの夢で迷っている。調理師の北澤さんの話の中で、「やってみないと分からない」という言葉が私の心をざわつかせた。これからはできないと分かっているけど、とりあえずやってみようと思う。

■ 全体を通して

1 授業の様子

～生徒の感想 振り返りシートより(全活動を振り返って考えたこと・気付いたこと)～

- ・たくさん人の話を聞いて、色々な人の生き方・仕事を知って、自分にとって大事なことを見つけることができたと思う。
- ・いろいろな人の夢や職業に触れることが新鮮で、おもしろかった。まだ夢を見つけていない私には夢を見つける第一歩になった。
- ・職業とは、人の夢のためにあり、世界と深い関わりがあるため、1つでも欠けてはいけない。
- ・自分の生き方がどんなものかを改めて考えることができた。…よい未来を作っていきたい。

～実践した同僚の感想～

- ・近い将来(高校進学)についてのみ考える時間ではなく、「生き方」という大きなテーマについて生徒なりに考えていた。中学1年生にとって一番疎いであろう「働く」という感覚を彼らなりに考えていた。
- ・準備は大切だと感じた。総合の時間に対して意欲的な生徒が増えて興味関心が高まった。一方で、「将来の展望」という意味では、幅を狭めてしまっている感じも受けた。
- ・「色々な人の価値観に触れる」を自分の中で一本のテーマにして生徒に伝え続けた。教師側の押さえがしっかりしていることが必要だと感じた。

◇ 他者との出会いや他の価値観との出会いによって、僅かかも知れないが、自分自身に対する新たな気付きや、見方の広がり生まれた。このような機会を継続的、かつ様々な切り口から与え続けたい。自然体験学習、職業体験、歴史文化の体験学習、そして進路学習において、参加型の手法を用いながら、同僚と協力し、より深い段階で、他者と学び合い、自己を高める学習の場を作り出したい。

2 参考文献・資料

- 1) JICAホームページ <http://www.jica.go.jp/volunteer/>